くらしは文化 no.81

愛知県名古屋市

中産連ビル本館

竣工60年を超えて現役 意匠も色あせないモダニズム建築

愛知県名古屋市の中産連ビル本館は、日本のモダニズム建築を牽引した建築家・坂倉準三の設計。昭和38（1963）年に竣工し、今も集会室貸しを行う。形状が異なる多数の小窓が並ぶファサードが印象的。DOCOMOMO Japanの日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選定。

建物が地面から浮いたように見える中産連ビル本館。小窓の形状・配置がユニーク。織部色と呼ばれる緑色のタイルは見本焼きを何度も繰り返して作った。

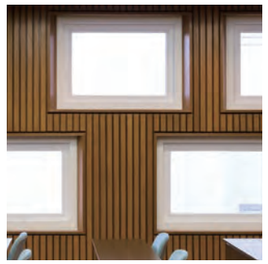
庇が特徴的な4階。坂倉作品の中でも1960年代に作られた庇は量感・質感ともに重厚さが増しているのが特徴。

コーナーの柱をなくし、ガラス窓の開放感・透明感を生かした4階。芝生や植栽のある屋上庭園が望める。

黄色がかった緑色など、窯変が美しいタイルは手仕事で貼られた。

4階集会室。反り上がった庇を支える梁にも角度がついている。2000年の改修時に梁型を見せる仕上げになった。

3階会議室。小窓がリズミカルな模様をつくり出す。小窓のほとんどがFIX窓。



3階会議集会室の壁には木製ルーバーが張り巡らされている。

1階ラウンジ。テラゾ仕上げの床に真鍮の目地で波のような曲線が幾重にも描かれている。黒色大理石の壁とのコントラストが際立つ。

Pタイル（樹脂製タイル）を敷いた床。定期的にワックスをかけてつやを保っている。ステップや木製手すりも竣工当時の姿で使われている。4階への階段（右）は絨毯敷き。

モダニズム建築の巨匠と呼ばれるル・コルビュジエに師事した坂倉準三は、第二次世界大戦後の日本においてモダニズム建築を実践、その発展を牽引した建築家の一人である。

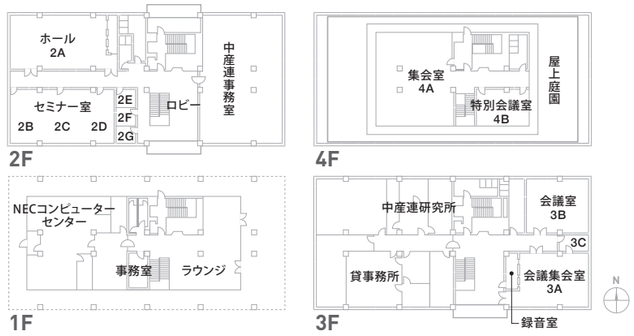
坂倉はコルビュジエが提唱した「ピロティ」「自由な立面」「自由な平面」「水平連続窓」「屋上庭園」の5要素からなる「近代建築の5原則」を中産連ビル本館に取り入れている。例えば、白色の枠の小窓と織部色のタイルで飾られた2、3階部分はあたかも地面から浮き上がっているように見えるが、それは、1階の四周に人が通行できる「ピロティ」を巡らしたこと、それにより道路から後退した建物外側にガラスを多用、透明感のある見た目としたことによる。RC造の採用は設計の自由度を高め、水平方向の「連続窓」も実現。また、反り上がった庇がかかる4階部分をセットバックし、生まれた空間に「屋上庭園」をつくる、などで表現している。

外観を印象付ける小窓は、館内でも意匠性が際立つ。大小の集会室に外光を取り入れる目的はもとより、リズム感のある明暗の模様をつくり出して美しい。部屋ごとに小窓の組み合わせが変化する楽しさや、窓からの風景を絵に見立てる趣向にもなっている。他にも1階ラウンジに見られる磨き上げたテラゾの床と真鍮で描かれた波模様、大理石の壁をバックにして映える白い階段と木製手すりの造形、坂倉が取り入れた手法の一つである反り上がった4階の庇など、多彩な意匠が目を引く。

2024年には外壁の改修を実施。タイル洗浄や、タイルの落下予防策として樹脂注入を行ったほか、窓枠も塗装し直して外観をリフレッシュさせた。竣工以来60年余、改修を繰り返して建物を維持し、将来にわたって長く利用するために必要な管理を継続していることも注目すべき点である。

※部屋の名称は竣工時のもの

竣工時の各階平面図



※『名古屋渋ビル手帖 中産連ビル特集号』名古屋渋ビル研究会を元に作成

用語説明

【中産連ビル本館】社団法人中部産業連盟（当時）の研修施設として建てられた。

【ル・コルビュジエ（1887～1965年）】スイス生まれ、フランスの建築家。1922年に機能主義デザインの最も明快な理論とされる「近代建築の5原則」を発表。

【テラゾ】大理石の細かい砕石にセメントを混ぜて固め、表面を磨いて光沢を出したもの。

愛知県名古屋市東区白壁3丁目12-13
協力：中産連ビルディング株式会社／株式会社坂倉建築研究所

ル・コルビュジエ
諸芸術の綜合　1930-1965

2025年1月11日（土）
～3月23日（日）

パナソニック 汐留美術館

くらしは文化 バックナンバー